

Climb

クライム

川野小児医学奨学財団

2021年度 事業報告書



みんな
で
の
り
こ
え
る。
。

みんなでのりこえる。

川野小児医学奨学財団は、病気で息子を亡くした父親の

「病に苦しむ子どもを減らしたい」という思いからはじまりました。

1989年に設立され、30年以上にわたって、

小児医学の支援に取り組んでいます。

子どもの病気に関する研究への助成や、

小児科医を目指す医学生への奨学金給付、

小児医療施設のサポートなどに取り組むなかで感じてきたのは、

子どもをとりまく問題の解決には社会全体の力が必要だということです。

医学が進歩し、乳幼児の死亡率は減っていますが、

いまだ解明されない小児の難病の存在や

特別なケアが必要な子どもの増加など問題は尽きません。

さまざまな立場や役割の人たちと翼翼に、

子どもたちが直面している問題を、みんなでのりこえる。

私たちは一歩ずつ、歩みをすすめてまいります。





interview

みんなでつないだ 小さな命と、大きな笑顔

藤崎 啓行（父） 幸（母） 希（娘 9歳）

公園で鉄棒遊びをするのが大好きな藤崎希ちゃん。
啓行さんと幸さんにとってはやっと出会えた「希望の子」だ。そんな希ちゃん、実は生後9ヶ月の時に生体肝移植を経験している。今の元気な姿からは想像できないが、PFIC（進行性家族性肝内胆汁うっ滞症）という難病だった。

「子どもの目は透き通っていると聞いたので、生後すぐに目の写真を撮ったんですが、少し濁っていたので『あれ?』と思って」と当時を振り返る啓行さん。予防接種が始まる頃には黄疸が強くなり、目もどんどん黄色くなっていく。健診の度に確認するが、「母乳で育てているなら珍しいことではない」と先生たちは口を揃える。

「不安で心配でもあったんですが、食欲はあるし、元気だから大丈夫なのかなと」（幸さん）

状況が急変したのは3ヶ月の定期健診の時だった。先生は希ちゃんを見るなり「黄疸だとわかっていたら、なんでもっと早く連れてこなかったの」と言ったのだ。

その時に診てくれた先生がある大学病院の分院のNICU（新生児集中治療室）所属だったことから、連れられるように病院に付いて行くと、その場で入院に。翌日には肝細胞を調べるための手術が必要だと告げられた。「生後3ヶ月で全身麻酔なんて」と不安は高まる。検査の結果、肝臓の胆汁に含まれるビリルビンが腸に流れていないことがわかった。いくつかの理由が考えられたが、先生はその時点でPFICを疑う。「明日からは本院に転院してください」。転院先では、最終的に手術が必要な病気であることを告げられた。ただ、彼女の小さな体では血管が細すぎてすぐには手術ができないため、まずは薬を使って治療する方針となった。

「正直、この数日間のことはよく覚えていないんです。状況もよくわからず、説明より先に行動を指定されることに怒りのようなものを感じていました」と啓行さん。幸さんも、「毎日一緒に入院している意味がわからなかった。なんで連れて帰っちゃいけないの?って」。

さらに、2人の頭には希ちゃんの誕生を誰よりも喜んでくれた両親のことがよぎる。抱かせてあげられないどころか、お食い初めも、初節句も、イベントが何もできていないことが、ただただ申し訳なかった。

投薬治療は、どの薬も最初は効果があったが、時間が経つにつれ数値がまた上がってしまう。4ヶ月間続けるも思うように進まず、ついに限界が訪れる。「このまま手術をしなかったら余命3ヶ月」という宣告だった。「担当の先生からは『ごめんね、薬では治せなかった』って。しんどかった」（幸さん）

担当の先生から「すごい人がある」と紹介されたのが、国立成育医療研究センターの笠原群生先生だった。

「待っていた部屋の前にひょっこり現れた先生に挨拶をすると、『暑い中、大変だったでしょ。こっちにおいで』と娘をひょいと抱っこしてスタスタ行っちゃったんです。その雰囲気にあっけにとられて」と幸さん。

2人はこの時に、手術をお願いすることを決める。「会ったその日に『私に任せれば、必ず元気にして返すから』と言われたんです。もう、その一言で、すべてこの先生に任せようと思いました」（啓行さん）

「人柄ですよ。先生に会って腹が決まった」（幸さん）

何より良かったのは、笠原先生やコーディネーターの上遠野さんに悲壮感や焦り、深刻さが全くなかったこと。どんなに数値が悪くても、明るい。2人はそれにすごく救われたのだという。ドナーとなったのは幸さん。



写真右 コーディネーターの上遠野さん

手術を振り返り、啓行さんは「心配は一つもなかったです。やっと手術が始まるんだ、あの先生だから大丈夫、そんな安心感だけですわね」。幸さんも「これで帰れる。手術が終われば、みんなで次のイベントができるんだって」。

術後の経過はいたって順調だった。希ちゃんはICUでミルクが足りないとねだって大声で泣いたほど。

「手術の後は数値が下がり、『こんなに白かったんだ』と思うくらい目がみるみる透き通っていくんです。そこからは早かったですわね。退院の日には笠原先生が、僕らの顔を見るなり『な、元気になっただろ?』って。そんなこと言われたら、泣いちゃいますよね」（啓行さん）

希ちゃんに病気のことを話したのは、保育園のお着替えの時にお腹の傷のことを気にし始めたからだった。幸さんは、こう説明したのだという。「あなたの電池がなくなったから、私の電池を半分あげたんだよ」。

当然、病気の記憶はない。自分の体に起こったことについては「よくわからないなあ」と希ちゃん。「それくらい、いたって普通だもんね!」と笑顔の啓行さん。今、そんな日常があるのは、たくさんの人の支えがあったから。「中でも上遠野さんの存在が大きかった」と幸さんは振り返る。治療中の経過についてはもちろん、術後のこと、退院後のこと、子どもの保育園のことや仕事のこと、普段かかる病院とのやりとりなども全部、力になってくれた。「いつでも私たちを安心させてくれるんです」。

病気のことを振り返りながらも、2人は「そんなに



大変なことをしたとは思っていない」と笑顔で話す。「病気は関係なく、元からかわいい我が子なんだからそれ以上のものではありませんよ。ただ、何に対しても感謝の気持ちを忘れることはないです」（啓行さん）「このまま元気で、先生たちに顔を見せに行けたらそれでいい。自分たちは助けてもらったのだから、いつか恩返しをしなきゃとは思っていますね」（幸さん）

コーディネーターが身近にいることから、希ちゃんは看護師の仕事に興味を持ち始めている。おじいちゃんやおばあちゃんが大好きなので、介護の仕事にも関心があるそうだ。大好きな猫の絵もいっぱい描きたい。友達に空中逆上がりの練習の成果も見せたい。やりたいことはいっぱいある。みんなでつないだ大事な命。これからも3人の毎日は続いていく。

先生からのメッセージ

国立成育医療研究センター 病院長 笠原 群生 先生
2020年度 小児医学川野賞 臨床医学分野 受賞者

希ちゃんの病気は希少疾患で、移植適応・手術手技など世界中から文献を取り寄せ、十分に勉強してから手術に向かいました。我々医療者は、患者さんご家族から勇気、医療者としてのやりがいを日々いただいているのが現状です。これからも、患者さんご家族の苦しみ・喜びと謙虚に向き合って、最良の医療を提供できるよう、精進してまいります。



Annual Report 2021



事業内容と2021年度のご報告

すべての子どもたちが心身ともに健やかに成長してほしい。そんな社会を目指し、川野小児医学奨学財団は6つの事業を行っています。2021年度の活動を数値とともにご報告します。

1 研究助成  46名 7,242万円	小児医学・医療の進歩とともに救われる命は増え、子どもたちの健康は確実に守られてきています。しかし、解決すべき問題はまだまだたくさんあります。当財団では、小児疾患の原因究明・治療・予防などに関する研究の発展を支援するため、1990年から小児医学研究者に対して助成金の交付を行っています。2007年には、若手研究者の活躍を後押しするために40歳以下の研究者を対象とする若手枠も設けました。一般枠は1人300万円、若手枠は1人100万円を上限として、助成金を交付しています。
2 奨学金給付  25名 2,598万円	「小児科医になって、子どもたちを支えたい」そんな高い志を持ちながらも、経済的な理由によって進学を諦めてしまう学生がいます。当財団では1990年から、小児医学を志す医学生および小児医学研究に従事している大学院生に対して奨学金事業を行っています。2021年からは埼玉県に加え、千葉県内の高校を卒業した方も対象としています。月額6万円を上限として、正規の最短修業年限以内において給付をします。奨学生は当財団開催のイベントを通じて、実際に活躍している小児医学研究者から直接学ぶこともできます。
3 小児医学 川野賞  3名 300万円	財団設立10周年を記念して、1999年に創設した小児医学川野賞。優れた業績を上げ、学術の進歩に貢献した小児医学研究者を表彰しています。“小児医学のさらなる発展を”との願いから、受賞後も小児医学への貢献が期待される55歳以下の研究者を対象としています。受賞者には賞状、賞金100万円とトロフィーが贈呈されます。創設当初は基礎医学、臨床・社会医学の2分野からの選出でしたが、2019年からは基礎医学、臨床医学、社会医学の3分野にて選出をしています。

4 医学会助成  10件 500万円	熱心な研究者が集い、研究発表や意見交換を行う医学会。当財団では、小児医学におけるさまざまな専門分野の発展を願い、1992年から日本国内で開催する小児医学に関する医学会に対して助成金を交付しています。現在では1件70万円を上限として助成しており、毎年多くの医学会よりご申請をいただいています。小児医学研究者の知識の共有や技術の進歩を支える取り組みとなっています。
5 小児医療 施設支援  9件 1,332,502円	入院や入所をしている子どもたちにとっては、病院や入所施設がまさに生活の場。そういった子どもたちのQOL(生活の質)を高めることは大切ですが、医療機関や施設がそのための予算を十分に確保するのは簡単ではありません。そこで1995年から、設備やボランティア活動を充実させるための費用に対して助成金を交付しています。1件15万円を上限とし、おもちゃや絵本、また直接面会が難しいコロナ禍においては面会用の通信機材などの購入にお使いいただいています。
6 ドクターによる 出前セミナー  12件	子どもたちの命や健康を守るために、学校現場や保育園、幼稚園などにおいても、医学的に適切な対応が求められるようになってきています。財団設立30周年を記念して2019年にスタートしたこの事業では、学校や保育園などで小児保健に従事する方たちが開催する研修会に対して、当財団が仲介役となり、小児科医を中心とした専門家を講師として派遣しています。2021年からは、養護教諭が実施する研修会に加え、就学前教育・保育施設の看護職従事者が実施する研修会にまで講師派遣対象を拡大しています。

1 研究助成



2021年度は一般枠 54 名・若手枠 48 名の応募がありました。選考委員による 3 月 29 日付け書面決議の結果、一般枠 22 名・若手枠 24 名の計 46 名の研究者に過去最高額となる総額 72,420 千円の助成金を交付しました。

2022 年 3 月 12 日には、オンラインにて助成研究成果発表会を開催しています。

交付者一覧

■ 一般枠 22 名

氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)	氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)
佐々木 哲也	国立大学法人筑波大学医学医療系生命医科学域解剖学・神経科学研究室「免疫系分子が大脳皮質形成に及ぼす影響とその変調による自閉症スペクトラム症発現機構の解明」	3,000	堀 美香	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学環境医学研究所内分泌代謝分野「家族性高コレステロール血症ホモ接合体における新規原因遺伝子の解明とモデル開発」	2,400
鈴木 滋	旭川医科大学小児科「NBAS 遺伝子異常症の病態解明：肝不全、低身長ならびに糖尿病発症・進展のメカニズム解明を目指して」	3,000	水落 建輝	久留米大学医学部小児科学講座「小児期発症自己免疫性肝疾患の新規バイオマーカーと病因遺伝子の探索」	2,400
山内 壮作	関西医科大学医学部小児科学講座「乳児期有熱性尿路感染症の再発リスク因子としての腸内細菌叢の dysbiosis」	2,600	磯田 健志	東京医科歯科大学小児科「ロングリードシーケンサーを用いた先天性免疫不全症・白血病発症機構の解明」	2,400
松尾 宗明	佐賀大学医学部小児科「もやもや病の病態解明」	3,000	森戸 大介	昭和大学医学部生化学講座「もやもや病の分子病態解明と新たな治療戦略の構築」	2,400
本多 昌平	北海道大学北海道大学病院消化器外科Ⅰ「球状肝細胞からゲノム・エピゲノム編集によって肝芽腫モデル細胞を作成する」	3,000	内匠 透	神戸大学大学院医学研究科「自閉症脳オルガノイド解析による病態解明」	2,400
藤原 なほ	順天堂大学医学部小児外科学講座「ES 細胞由来腸管神経前駆細胞を用いたヒルシュスブルング病の革新的治療の開発」	3,000	池田 真理子	藤田医科大学臨床遺伝科「福山型筋ジストロフィーに対する次世代ゲノム編集法を駆使したスプライシングスイッチ療法の確立」	1,500
森 雅樹	国立循環器病研究センター血管生理学部「小児の細胞若年性を活用した若年性誘導治療の確立」	2,000	澤井 俊宏	国立大学法人滋賀医科大学小児科学講座「小児 C3 腎症の病勢を反映する新たな指標は、治療法最適化・治療侵襲の低減に寄与するか」	885
安藤 清宏	埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所「治療抵抗性神経芽腫の長期病勢コントロールを目指した免疫チェックポイント阻害剤併用分子標的薬の探索と新規治療開発」	2,300	山川 裕之	慶應義塾大学医学部予防医療センター「日本独自の新規遺伝子編集技術を用いた、ファブリー病心筋症による心不全治療法の樹立」	1,500
松井 健	島根大学医学部神経・筋内生理学「ヒト脳オルガノイド技術による先天性奇形症候群の発症機構の解明」	3,000	杉本 篤言	新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄附講座「脳磁図 (MEG) を用いた自閉スペクトラム症 (ASD) 固有の視線認知発達の検討」	1,485
深野 玲司	山口大学医学部附属病院小児科「ALK陽性未分化大細胞リンパ腫がALK阻害剤に対して耐性を示すメカニズムの解明」	3,000	伊藤 雅之	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第二部「レット症候群のエピゲノム編集技術による遺伝子治療の基盤研究」	1,500
磯島 豪	帝京大学医学部小児科学講座「骨細胞における SOCS3 (suppressor of cytokine signaling 3) 抑制シグナルを中心とした皮質骨と骨髄細胞の相互関係の解明」	2,400	福光 延吉	兵庫県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター放射線治療科「ダイナミックマルチリーフコリメータを応用した小児脳腫瘍線患者に対する陽子線治療法の開発と評価」	1,500
			小計		50,670

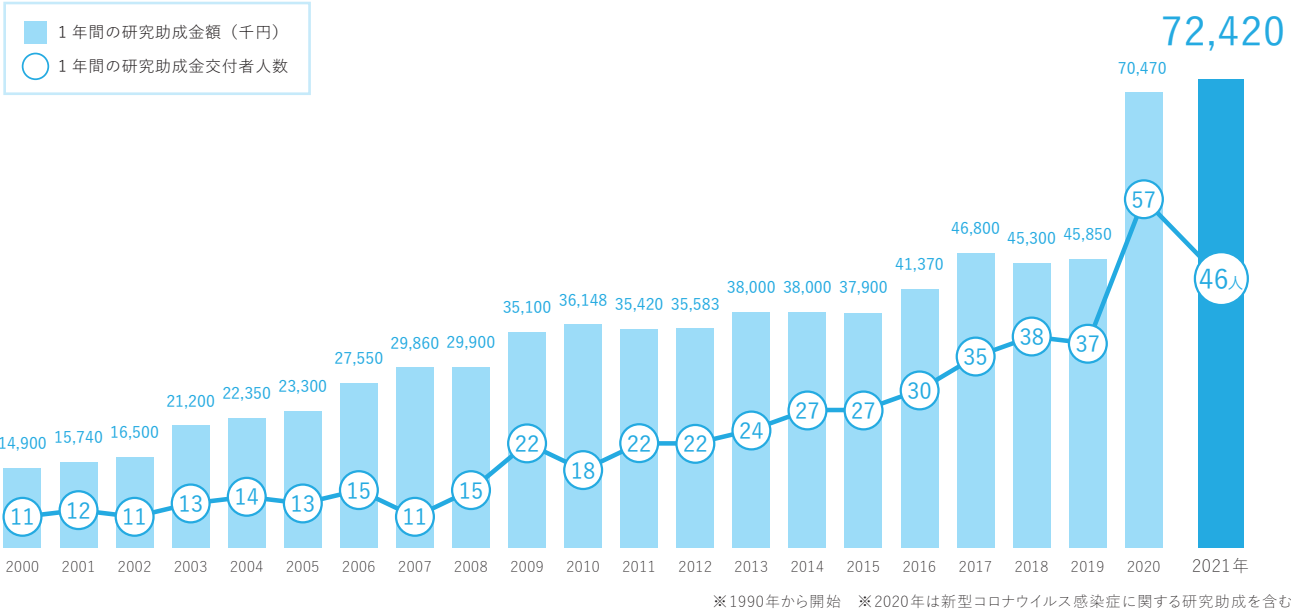
■ 若手枠 24 名

氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)	氏名	所属機関「テーマ」	交付額 (千円)
玉井 望雅	山梨大学大学院総合研究部小児科学講座「ヒト iPS 細胞を用いた急性巨核球性白血病 (Acute megakaryoblastic leukemia; AMKL) モデルの樹立」	1,000	関口 昌央	東京大学医学部附属病院小児科「間葉系幹細胞の胚葉起源に基づくクーイング肉腫の新規分類法の確立とその治療応用」	1,000
堀之内 智子	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども総合療育学部門「遺伝子座特異的 ChIP 法を用いた小児腎疾患の発症機序解明」	1,000	藤木 俊寛	金沢大学附属病院小児科「マウスモデルを用いた慢性移植片対宿主病の病態解明と新規制御法探索」	1,000

山室 和彦	奈良県立医科大学精神医学講座「発達脳と恐怖記憶の神経基盤の解明」	1,000
木下 英幸	千葉県がんセンター整形外科「骨肉腫の腫瘍進展におけるレドックス制御の分子機序解明および新規治療薬の探索」	1,000
古山 貴文	金沢医科大学医学部基礎医学生理学 1「注意欠陥多動性障害における前頭前皮質の神経動態解明：行動・ドーパミン・神経活動の同時計測」	1,000
中村 弘樹	関西医科大学医学部外科学講座小児外科「ヒルシュスブルング病における、パネート細胞を介した新たな腸管免疫応答の解明」	980
今川 和生	筑波大学医学医療系小児科「小児期発症潰瘍性大腸炎の病変進展における免疫学的特徴の解析」	1,000
星野 雄介	茨城県立こども病院新生児科「超早産児における横隔膜機能の温存を目指した人工呼吸器の管理指針の構築」	810
武田 昌寛	順天堂大学小児外科「小児期発症潰瘍性大腸炎における神経系及び免疫系細胞の相互発生制御機構の検証」	1,000
坪田 庄真	名古屋大学大学院医学系研究科分子生物学「時期・細胞特異的な神経芽腫の発生機構解明」	1,000
名和 智裕	北海道立子ども総合医療・療育センター循環器病センター「小児重症患者に対する小児集中治療室 Pediatric Intensive Care Unit での多職種による早期離床・リハビリテーションの取り組み～小児における早期リハビリテーションのプロトコルと体系的システムの構築～」	1,000
永倉 顕一	国立病院機構相模原病院小児科「アナフィラキシー既往があり少量の食物経口負荷試験で客観的症状を誘発される重症牛乳アレルギー児に対する LGG 乳酸菌を併用する経口免疫療法の有効性とメカニズムの解析」	1,000

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関 ※(一般枠) 磯島豪先生はお申し出によりご辞退

これまでの実績 [研究者に対する研究助成金と交付者の推移]



2 奨学金給付

2021年度は、コロナ禍の影響により家計不安を抱えるより多くの医学生のお役に立つことを目的に、募集対象者を埼玉県に加え千葉県内の高校を卒業した方にまで拡大しました。

一次募集、二次募集合わせて11名の応募があり、選考委員による書類審査および理事長による面接選考の結果、新規8名の医学生に対する給付を決定しました。継続17名と合わせて計25名の医学生に対して、総額25,980千円の奨学金を給付しました。2021年9月11日には、オンラインによる奨学生証書授与式を開催しています。



奨学生に贈られる盾



オンライン奨学生証書授与式の様子

給付者大学一覧

■ 新規給付 8 名

大学名	人数	年間給付額(千円)
大分大学	2	2,160
杏林大学	1	1,080
東京医科大学	1	1,080
東京女子医科大学	1	1,080
東北医科薬科大学	2	2,160
福島県立医科大学	1	1,080
小計		8,640

■ 継続給付 17 名

大学名	人数	年間給付額(千円)
慶應義塾大学	3	3,240
島根大学	3	2,220
東京医科歯科大学	1	1,080
東京女子医科大学	1	1,080
東北医科薬科大学	2	2,160
東北大学	3	3,240
獨協医科大学	1	1,080
福島県立医科大学	3	3,240
小計		17,340

長引くコロナ禍での特別な取り組み

医学生に対する 奨学金年間増額

36万円/人

アルバイト先の休業などで収入が減り経済的に困窮している学生がいることを受け、当財団では奨学生23名に「生活での困りごと」についてヒアリング調査を実施。結果、約3人に1人の奨学生が金銭面での不安を抱えていることがわかりました。そこで、2021年7月～2022年3月の9ヶ月間、給付額を月額6万円から10万円に増額し支給しました。

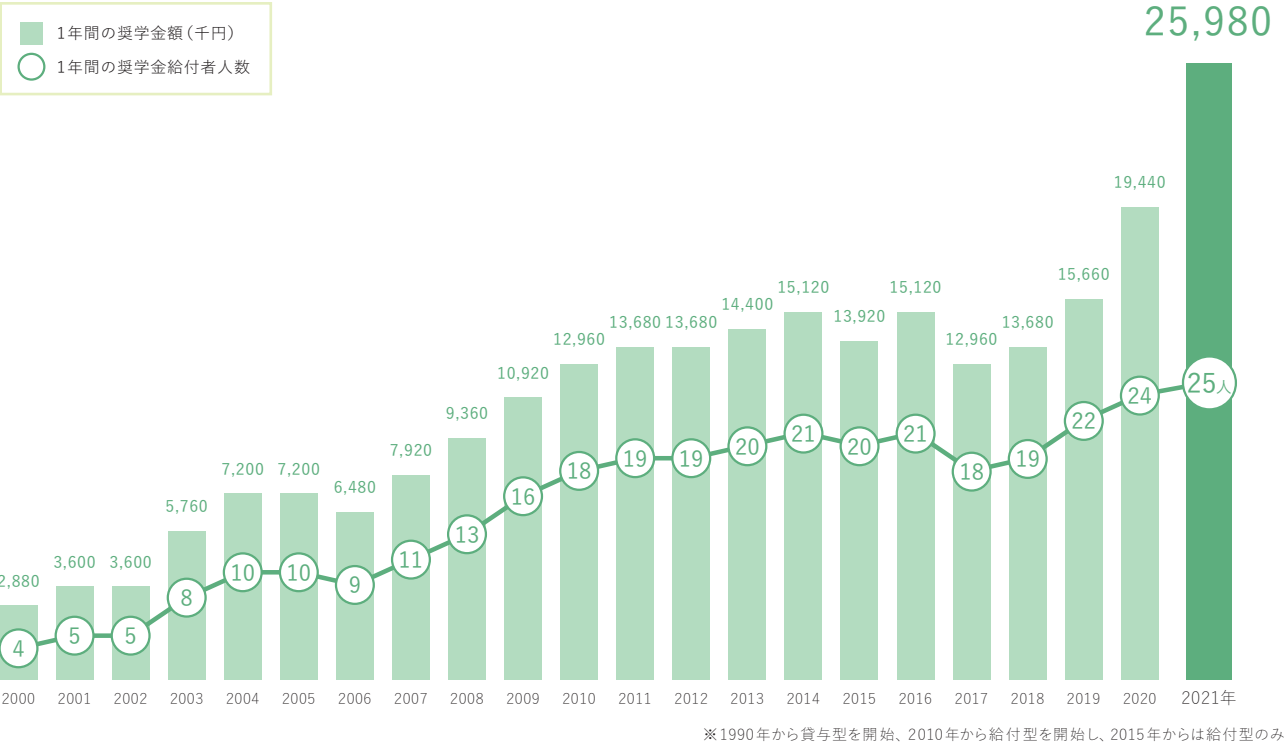


佐藤 海里
福島県立医科大学医学部医学科6年

＼ 奨学生からの声 /

日頃から川野小児医学奨学財団の奨学生としてご支援いただき、心より深くお礼申し上げます。2020年から翌年にかけて、新型コロナウイルスによる影響でアルバイト先が休業となり、収入が激減しました。その中での奨学金の増額は、金銭的にも精神的にも大きな支えとなり、医学の勉強に集中することができています。これからもご支援いただいているすべての方々への感謝を忘れず、より一層精進してまいります。

これまでの実績 [医学生に対する奨学金と給付者の推移]



3 小児医学川野賞

当財団設立30周年を迎えた2019年度より、募集分野を基礎医学・臨床医学・社会医学の3分野に拡大し、推薦を受け付けています。2021年度は基礎医学5名・臨床医学7名・社会医学1名の応募があり、2021年12月11日に実施した選考委員会の結果、3名の研究者に小児医学川野賞を贈呈しました。2022年3月12日には、オンラインにて贈呈式および記念講演会を開催しています。

受賞者インタビュー



新生児慢性肺疾患の 子どものQOL向上を 目指して

埼玉医科大学総合医療センター小児科 准教授・研究主任
難波 文彦 先生

低出生体重児など非常に小さな赤ちゃんが発症しやすい病気のひとつに「新生児慢性肺疾患（CLD）」があります。超早産児の生存率向上に伴って患者数が増えているにもかかわらず、いまだにわからないことが多いCLD。その研究への取り組みによって、2021年度小児医学川野賞臨床医学分野をご受賞された難波先生にお話を伺いました。

Q 新生児慢性肺疾患（CLD）について教えてください。

日本では、医療の進歩に伴って、以前であれば助からなかったような極めて小さな赤ちゃんの誕生が増えています。そういった赤ちゃんは体の機能が未熟なため、病気にかかるリスクも高くなります。低出生体重児が発症しやすい病気のひとつに「新生児慢性肺疾患（chronic lung disease：CLD）」という肺の病気があります。これは、1000g未満で産まれた超低出生体重児や28週未満で産まれた超早産児に約7～8割の高確率で発症します。残念なことに、現時点でCLDに特效薬はありません。多くの赤ちゃんは回復しますが、自宅へ

戻ってからも人工呼吸器や酸素投与が必要になる赤ちゃんもいます。学童期になっても医療的ケアを必要としたり、成人してからも普通の人よりも呼吸器の病気になりやすかったり、CLDの患者を長期的にどのようにケアすべきかは大きな課題です。

Q 難波先生はどのようなご研究をされているのですか？

私たちはCLDの医療水準や患者と家族のQOL（生活の質）を上げることが目的に、さまざまな研究を行っています。

研究テーマのひとつに病気の診断基準を決めると

いうものがあります。一般的に、診断はその病気の原因があるかどうかを基準に行いますが、CLDは原因や症状が多様なため、治療の有無で判断をしています。例えば28週未満で生まれた赤ちゃんが「36週時点で酸素を導入していればCLDと診断する」などです。また、この診断基準には将来的に見込まれる体への影響も考慮されるべきですが、その点もまだ整備されていません。そこでご家族の同意を得た上で、埼玉県内の超早産児のデータを集め、原因によって病気を判断できないか、将来の状態を予測できる診断基準はどのようなものか検討を進めています。

さらに、CLDにかかった方のその後を追跡する研究も行っています。当院のNICU（新生児集中治療室）を退院し、現在成人になっている方を対象に呼吸器に関するアンケート調査や簡易検査を実施して、呼吸器に問題を抱えていないかを把握します。これにより、長期的な病気の影響を明確にしようとしています。私たちの研究によってこの病気を根治することはできませんが、CLD患者やそのご家族の抱える多くの問題の解決に貢献できればと思います。



川野賞受賞者に贈られるトロフィー

受賞者一覧

分野	氏名	所属機関	研究テーマ
基礎医学	鏡 雅代	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部 臨床内分泌研究室	インプリンティング異常症に関する研究
臨床医学	難波 文彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科	新生児慢性肺疾患に関する基礎的・臨床的研究
社会医学	森崎 菜穂	国立成育医療研究センター社会医学研究部	ライフコース疫学～胎児期から幼少期の環境が小児及び成人期の健康に与える影響の解明～

※敬称略・所属機関は受賞時の機関

これまでの受賞者

回 / 年度	分野	氏名	所属機関
第 1 回 2000年度	—	奥山 真紀子	埼玉県立小児医療センター保健発達部精神科
第 2 回 2001年度	基礎医学	林 泰秀	東京大学医学部小児科
	基礎医学	長谷川 奉延	慶應義塾大学医学部小児科
	臨床・社会医学	平岡 政弘	福井医科大学小児科
第 3 回 2002年度	基礎医学	廣瀬 伸一	福岡大学医学部小児科
	臨床・社会医学	大井 静雄	東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座
第 4 回 2003年度	基礎医学	緒方 勤	国立成育医療センター研究所小児思春期発育研究部
	臨床・社会医学	吉川 徳茂	和歌山県立医科大学小児科
第 5 回 2004年度	基礎医学	斎藤 博久	国立成育医療センター研究所免疫アレルギー研究部
	臨床・社会医学	加治 正行	静岡県立こども病院内分泌代謝科
第 6 回 2005年度	基礎医学	伏木 信次	京都府立医科大学大学院医学研究科分子病態病理学
第 7 回 2006年度	基礎医学	大橋 十也	東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所遺伝子治療研究部・同小児科
	臨床・社会医学	夏目 長門	愛知学院大学歯学部口唇口蓋裂センター
第 8 回 2007年度	基礎医学	峯岸 克行	東京医科歯科大学大学院免疫アレルギー学
	基礎医学	塚原 宏一	福井大学医学部付属病院小児科
	臨床・社会医学	山高 篤行	順天堂大学医学部小児外科
第 9 回 2008年度	基礎医学	金子 英雄	岐阜大学大学院医学系研究科医学部地域医療医学センター
	臨床・社会医学	小崎 健次郎	慶應義塾大学医学部小児科学教室
第 10 回 2009年度	基礎医学	深尾 敏幸	岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学
	臨床・社会医学	高橋 幸利	国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター臨床研究部
第 11 回 2010年度	基礎医学	先崎 秀明	埼玉医科大学国際医療センター総合周産期母子医療センター小児循環器部門
	臨床・社会医学	海老澤 元宏	国立病院機構相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部
第 12 回 2011年度	基礎医学	下澤 伸行	岐阜大学生命科学総合研究支援センターゲノム研究分野
	臨床・社会医学	川崎 幸彦	福島県立医科大学小児科
第 13 回 2012年度	基礎医学	福田 誠司	島根大学医学部小児科学
	臨床・社会医学	加藤 光広	山形大学医学部附属病院小児科
第 14 回 2013年度	基礎医学	滝田 順子	東京大学大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学小児科
	臨床・社会医学	浜野 晋一郎	埼玉県立小児医療センター
第 15 回 2014年度	基礎医学	滝沢 琢己	群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野
	臨床・社会医学	高橋 謙造	帝京大学大学院公衆衛生学研究科
第 16 回 2015年度	基礎医学	田島 敏広	自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科
	臨床・社会医学	家入 里志	鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児外科学分野
第 17 回 2016年度	基礎医学	北中 幸子	東京大学大学院医学系研究科小児医学講座
	臨床・社会医学	野津 寛大	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野
第 18 回 2017年度	基礎医学	竹田 誠	国立感染症研究所ウイルス第三部
	基礎医学	深見 真紀	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部
	臨床・社会医学	森岡 一朗	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学分野
第 19 回 2018年度	基礎医学	道上 敏美	大阪母子医療センター研究所環境影響部門
	臨床・社会医学	酒井 康成	九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野小児科学
第 20 回 2019年度	基礎医学	川井 正信	大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門／消化器・内分泌科
	臨床医学	武内 俊樹	慶應義塾大学医学部小児科
	社会医学	頼藤 貴志	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻疫学・衛生学分野
第 21 回 2020年度	基礎医学	安友 康二	徳島大学大学院医歯薬学研究部（医学域）
	臨床医学	齋藤 昭彦	新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野
	臨床医学	笠原 群生	国立成育医療研究センター臓器移植センター

※敬称略・所属機関は受賞時の機関

4 医学会助成



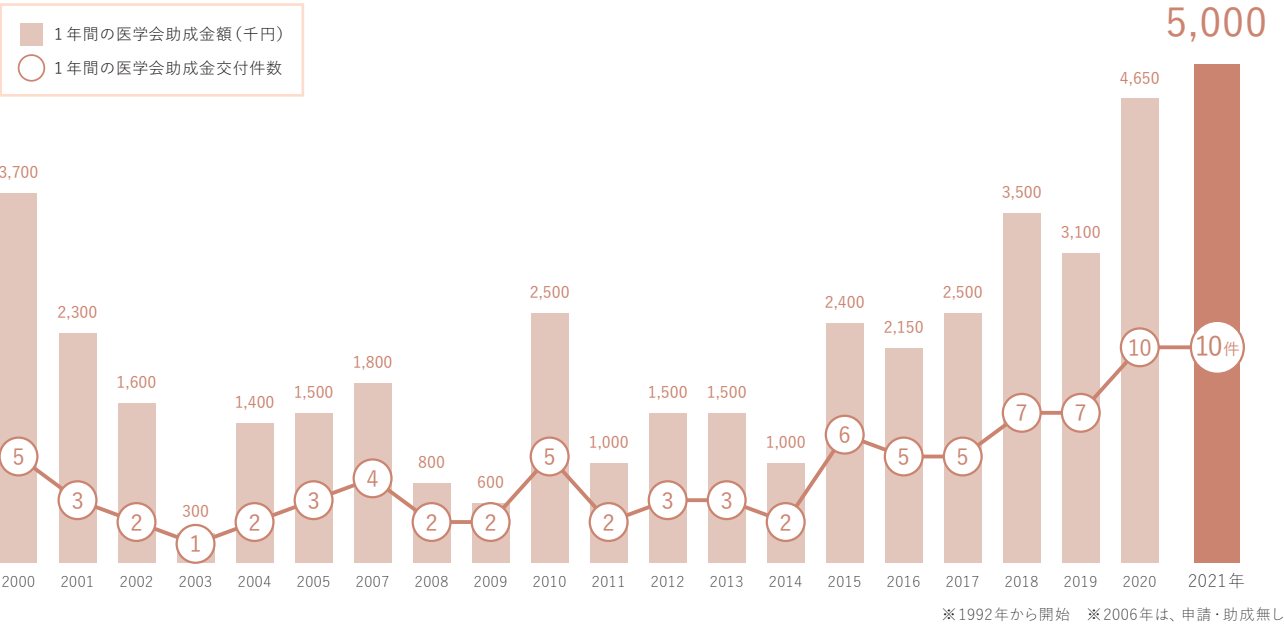
2021年度は一次募集、二次募集を行い、合わせて19件の応募がありました。

選考委員による書類審査の結果、10件の医学会に対して総額 5,000千円の助成金を交付しました。

助成先一覧

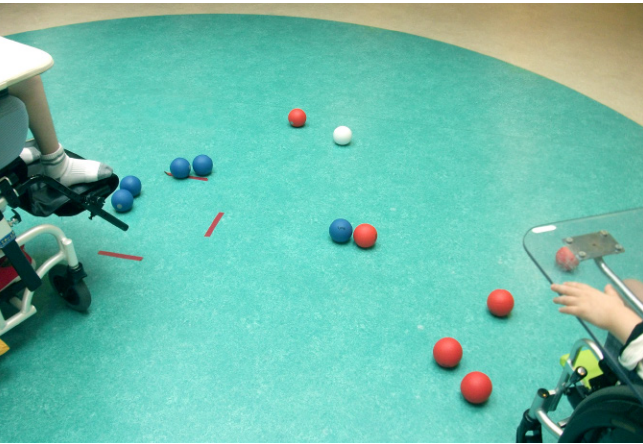
学会名	開催日	開催場所	交付額(千円)
第 12 回 日本子ども虐待医学会学術集会	2021年 7月3日・4日	京都テルサ	500
第 45 回 日本小児皮膚科学会学術大会	2021年 7月3日・4日	ウェスティンホテル東京	500
第 39 回 日本小児心身医学会学術集会	2021年 9月23日～25日	WEB 開催	500
第 53 回 日本小児感染症学会総会・学術集会	2021年 10月9日・10日	京王プラザホテル	500
第 28 回 小児集中治療ワークショップ	2021年 10月23日・24日	埼玉会館	500
第 13 回 国際川崎病シンポジウム	2021年 10月29日～31日	TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター (Web 配信会場)	500
第 46 回 東日本小児科学会学術集会	2021年 11月23日～12月14日	WEB 開催	500
第 37 回 日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会	2021年 11月27日・28日	ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター	500
日本子ども虐待防止学会 第 27 回 学術集会かながわ大会	2021年 12月4日・5日	パシフィコ横浜ノース	500
第 47 回 日本小児眼科学会総会	2022年 3月19日・20日	日本教育会館	500
※開催日順 ※「第45回日本小児皮膚科学会学術大会」はお申し出によりご辞退			合計 5,000

これまでの実績 [医学会に対する助成金と交付件数の推移]



5 小児医療施設支援

2021年度は14件の応募があり、選考委員による書類審査の結果、9件の小児医療施設に対して総額約1,332千円の助成金を交付しました。



ポッチャボールセット

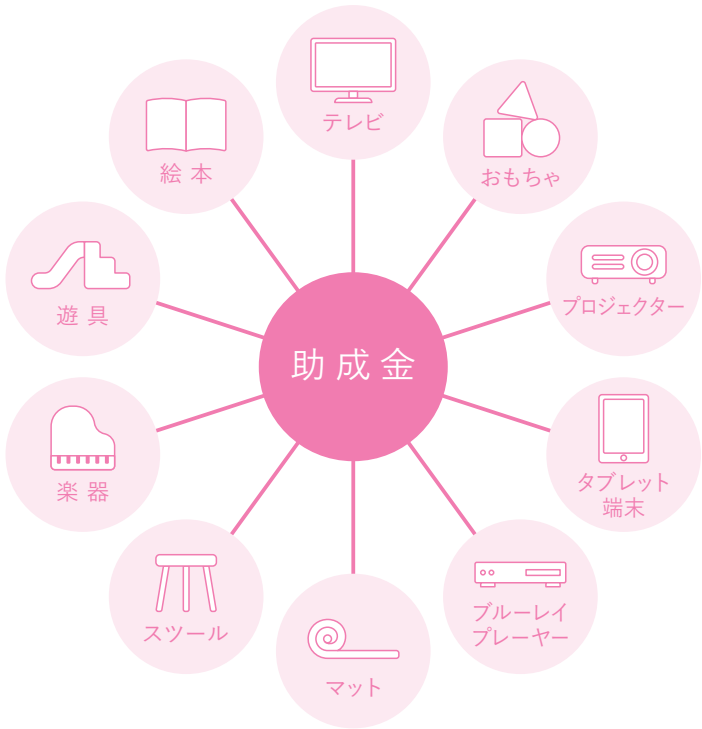


おもちゃ収納ラック

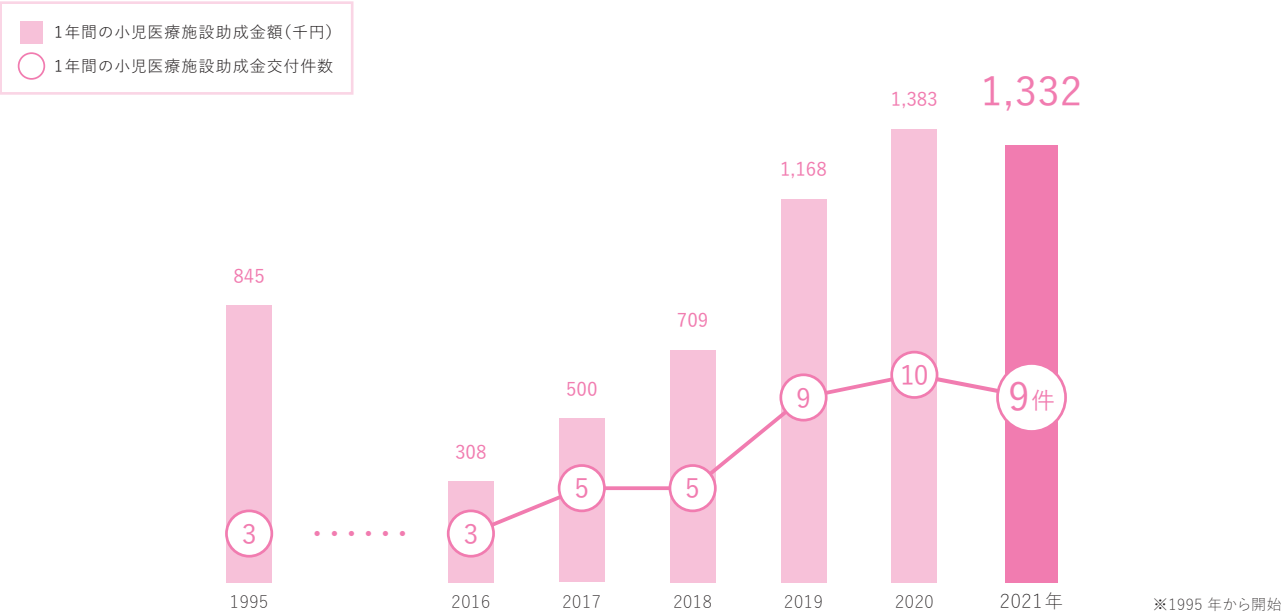
助成先一覧

施設名	使 途	助成金額(円)
独立行政法人国立病院機構東埼玉病院	モバイルプロジェクター・iPod touch	149,357
自治医科大学附属さいたま医療センター	プロジェクター・ポータブル BD プレーヤー・DVD セット	149,710
医療法人社団武蔵野会 TMG あさか医療センター	iPad	138,540
独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院	iPad・モバイルルーター	147,180
埼玉医科大学病院	デジカメ・プロジェクター・動く絵本・ハイローチェア・バウンシングシート・バウンサー・絵本・おもちゃ収納ラック・七夕用笹	148,308
社会福祉法人埼玉医大福祉会カルガモの家	ポッチャボールセット・DVDプレーヤー	150,000
社会福祉法人埼玉医療福祉会光の家療育センター	おとえほん・砂遊びおもちゃ・室内用砂遊び・ハンモック・ミュージックステーション・DVD プレーヤー・DVD・パラバルーン・おもちゃ・ジムボール・エアマットレス	149,962
防衛医科大学校病院	液晶モニター・BD プレーヤー・DVD・絵本	149,935
社会医療法人さいたま市民医療センター	液晶テレビ・ハードディスク・ブルーレイプレーヤー	149,510
合 計		1,332,502

■ 助成金の使途（過去の一例）



これまでの実績 [小児医療施設に対する助成金と交付件数の推移]



6 ドクターによる出前セミナー



子どもたちの健やかな成長に重要な役割を担っておられる方々をより幅広くご支援できるよう、2021年度から養護教諭に加え、就学前教育・保育施設で看護職に従事される皆さまの研修会も対象としました。一次募集、二次募集合わせて13件のお申し込みがあり、選考委員による審査の結果、12件に講師を派遣することを決定しました。コロナ禍の影響により多くがオンラインでの開催となりましたが、感染対策を徹底した上で一部対面での開催もしました。

講師 & 受講者インタビュー

12月には、「保健室での救急処置ー学校で子どもの命を守るー」をテーマに、対面にて出前セミナーを実施しています。講師をしていただいた自治医科大学附属さいたま医療センター小児科教授の市橋光先生と、当日受講した養護教諭を代表して埼玉県立児玉高等学校養護教諭の柳愛子先生に感想を伺いました。

■ 講師インタビュー



「社会の宝」である
子どもたちを守るために
私たちができること

自治医科大学附属さいたま医療センター小児科 教授
市橋 光先生

Q 講義で養護教諭の皆さんに
特に伝えたかったことは何ですか？

日本の新生児死亡率は世界の中でも1、2を争うほど低い一方で、年齢が上がるにつれ、各国と比べると、かなり少ないものの死亡率は上がっていきます。そんな子どもたちを助けるためにはどうするか。大切なことは、状態が悪くなる前に発見し、対応することです。常に第一発見者が医者であるとは限らないので、学校という現場で第一発見者として養護教諭や担任の先生方がきちんと対応できることは非常に重要なのです。よくあるような「腹痛」や「嘔吐」では、お腹の風邪ではないかと判断しがちですが、その中に腸捻転や心筋炎といったケースがないわけではありません。たと

え確率が低くても、重篤な病気を見逃すと大変です。「最悪の場合に備える」とか「重篤な場合を考える」ことが、子どもたちを救っていくことにつながっていると思います。

Q セミナーを終えて、
医師としてどのようなことを感じましたか？

普段、養護教諭の方に対して講演を行う機会はほとんどないため、貴重な機会をいただきありがとうございました。とても真剣に聞いていただき感謝していますし、医師である我々がもっと積極的にこのような機会をつくっていかねばならないと感じました。財団にはぜひ今後ともこの事業を続けていただきたいですし、また

協力できればと考えています。「社会の宝」である子どもを社会全体で育てようという意識は、ヨーロッパ諸国に比べると日本はまだまだ低いのが現状です。だからこそ、さまざまな立場の人たちとつながり、一緒に考える機会を持つことの大切さを改めて感じています。

Q 今後、教育現場と一緒に
考えていきたいことを教えてください。

現在の子どもたちを取り巻く問題はさまざまです。

■ 受講者インタビュー



子どもの命を預かる立場として
身が引き締まった
ドクターによる貴重なお話

埼玉県立児玉高等学校 養護教諭
柳 愛子先生

Q お申し込みいただいた
きっかけは何ですか？

私どもは年に2回ほど研修会を開いているのですが、そこにドクターを呼ぶのはなかなかハードルが高いんです。今回、現場の第一線で活躍する市橋先生の話が聞けるということで、「これは貴重な機会になる」と感じました。日頃から子どもの命を守ることを第一に考えている我々にとって、救急処置は大切なテーマ。だからこそ何度これ聞いても無駄になることはありませんし、大事なテーマで研修させていただけたことに感謝しています。

Q セミナーを受けてみての
感想を聞かせてください。

突然死になる症例を心電図などを交えて解説していただいたり、疑われる病気や潜んでいる危険について貴重なお話を伺うことができ、本当に良かったです。瞬時に判断して見分けるのは難しいですが、「最悪の場合も想定して対応する」というお話から、いろいろな

例えば10歳から14歳の死亡理由の3番目が「自殺」です。あるいは「不登校」でなかなか学校に行けないのも、子どもにとっては不幸なことです。家庭内の問題として「虐待」もあります。家庭環境や養育環境が不十分なために、十分に幸せな生活を送っていない子どもはたくさんいるわけです。こうしたことは医療だけでなく社会全体で考えていかなければいけません。学校で気づいてあげられることもありますので、ともに考えていくことは重要だと思っています。

ことを想像して対応することが命を守る上では大切なんだと痛感しています。また、他の教員にもこうした話を知ってもらいたいと思った時に、「研修を受けてきたのでぜひ資料を共有したい」と伝えられることで、受け入れてもらいやすいんです。本などを読んで自主的に勉強することも大事ですが、現場のドクターの講義が受けられることは、そういった点でも非常に意義があると感じました。

Q 今後、財団に期待することは
ありますか？

教育現場にいて最近感じるのは、子どもたちが多様化しているということです。外国籍で日本語が不得意な子どもや、発達障害やADHD、LDの子どももいます。生きづらさを感じていたり、仲間とのコミュニケーションに悩んでいる生徒に対しては、カウンセラーに協力してもらいながら私たちも手探りで対応してはいますが、そうした子どもたちと向き合っていくためのセミナーも受けてみたいと思いました。

実績一覧

実施日	テーマ	講師	受講者数 / 実施形式	主催者
2021年 7月28日(水)	保健室での救急処置 ～外傷対応、アレルギー症状について とアナフィラキシーについての対応～	埼玉医科大学総合医療センター 救急科 非常勤医師 浅野 祥孝先生 / 看護部 看護師小児アレルギーエドゥケーター 佐藤 栄美子先生	約 60 名 オンライン	深谷市保健委員会
2021年 8月5日(木)	子どもの心臓突然死について	埼玉医科大学総合医療センター 救急科 非常勤医師 浅野 祥孝先生 / 救急救命士 安齋 勝人先生	約 30 名 オンライン	上尾市養護教諭部会
2021年 10月12日(火)	保健室での救急処置 - 学校で子どもの命を守る -	自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科・感染制御室 教授 市橋 光先生	約 80 名 オンライン	川口市養護教員部会
2021年 10月16日(土)	落ち着きのない子、聞き分けのない子、 引っ込み思案の子、みんなが地域の 未来を支える原石です	埼玉医科大学総合医療センター 小児科 教授 是松 聖悟先生	約 80 名 オンライン	学校保健研究サークル・ さくら草
2021年 10月17日(日)	保育園ではじめる性教育	筑波大学大学院社会精神保健学分野・産婦人科医 遠見 才希子先生	約 100 名 オンライン	全国保育園保健師 看護師連絡会
2021年 11月12日(金)	小中学生期の頭痛・ 頭部外傷と脳脊髄液減少症について	山王病院 脳神経外科部長 高橋 浩一先生	約 50 名 対 面	熊谷市養護教諭部会
2021年 11月24日(水)	発達障害を抱えた子どもと その保護者への対応	白百合女子大学 副学長 人間総合学部 発達心理学科 教授 医学博士・小児科医 宮本 信也先生	約 25 名 オンライン	蕨市養護教諭会
2021年 11月25日(木)	頭部外傷と脳脊髄液減少症について	山王病院 脳神経外科部長 高橋 浩一先生	約 30 名 対 面	新座市立小・中学校 養護教諭研究協議会 全体研修会
2021年 12月13日(月)	保健室での救急処置 - 学校で子どもの命を守る -	自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科・感染制御室 教授 市橋 光先生	約 45 名 対 面	北部高校養護教諭会
2022年 2月4日(金)	保健室での救急処置 ～外傷対応、アレルギー症状について とアナフィラキシーについての対応～	かわごえファミリークリニック 院長 浅野 祥孝先生 / 埼玉医科大学総合医療センター看護部 看護師 小児アレルギーエドゥケーター 佐藤 栄美子先生	約 80 名 オンライン	東部高等学校保健会 合同研修会
2022年 2月15日(火)	子どもの心に関する問題	国立成育医療研究センターこころの診療部 児童・思春期リエゾン診療科 診療部長 田中 恭子先生	約 35 名 オンライン	飯能・日高養護教諭 合同研修会
2022年 2月15日(火)	子どもの頭部外傷について	自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児脳神経外科 教授 五味 玲先生	約 40 名 オンライン	鴻巣市学校保健会 研修会

※開催日順 ※講師の所属先および役職は実施日時点のもの

昨年度の実績一覧

実施日	テーマ	講師	受講者数 / 実施形式	主催者
2020年 8月7日(金)	学校と心肺蘇生	埼玉医科大学総合医療センター 救急科 医師 浅野 祥孝先生 / 救急救命士 安齋 勝人先生	約 30 名 オンライン	上尾市養護教諭部会
2020年 11月25日(水)	発達障害を抱えた子どもへの対応 ～正しく理解することの大切さから～	白百合女子大学 副学長 人間総合学部 発達心理学科 教授 医学博士・小児科医 宮本 信也先生	約 20 名 オンライン	蕨市保健主事 養護教諭合同講演会
2021年 2月10日(水)	小児期、学童期頭部外傷の病態と 対応法さらに小児期の頭痛について	山王病院 脳神経外科部長 高橋 浩一先生	約 30 名 オンライン	新座市立小・中学校 養護教諭研究協議会 全体研修会
2021年 3月12日(金)	思春期の自殺の予防について	北海道大学大学病院 児童思春期精神医学 研究部門 特任教授 齊藤 卓弥先生	約 80 名 オンライン	東部高等学校保健会 保健主事・養護教諭 合同研修

※開催日順 ※講師の所属先および役職は実施日時点のもの

2022年度中の募集について

2022年度は以下の事業において応募を受け付けます。詳細は当財団ウェブサイトをご覧ください。

募集概要



2022年度
小児医学川野賞

対象分野	小児医学、ことに基礎医学・臨床医学・社会医学に関する研究
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 2023年3月31日時点で55歳以下であること (2) 所属する学会もしくは組織の責任者から推薦を受けていること
顕彰	賞状、トロフィーおよび賞金100万円
募集期間	2022年8～10月末頃予定



2022年度
小児医療施設支援

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 原則として埼玉県または千葉県 の県内にある入院病棟を有する医療施設または医療型入所施設 (2) 2019年度以降に当財団の「小児医療施設支援」事業で助成金を受けていないこと
助成内容	15万円以内／件
募集期間	2022年8～10月末頃予定



2023年度
医学会助成

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内で開催する小児医学に関連する医学会であること (2) 開催日が2023年4月1日～2024年3月31日であること
助成内容	70万円以内／件
募集期間	2022年8～10月末頃予定



2023年度
研究助成

対象分野	小児疾患の原因究明・診断・治療・予防等に関する基礎医学的研究、臨床および社会医学的研究。ただし、日本国内の研究機関で行う研究に限る
応募資格	申請者が次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事していること (2) 所属する組織の責任者から推薦を受けていること (3) 2020年度以降に当財団の「研究助成」事業で助成金を受けていないこと (4) 若手枠の場合は、2023年3月31日時点で40歳以下であること
助成内容	〈一般枠〉300万円以内／件 〈若手枠〉100万円以内／件
募集期間	2022年9～11月末頃予定



2023年度
奨学金給付

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 身体が健康であり、気質および素行ならびに学業が良好である者 (2) 埼玉県または千葉県の県内の高校を卒業し、日本国内の総合大学医学部、または医科大学で小児医学を志す大学生、および小児医学研究に従事している大学院生 (3) 学長、副学長、または学部長の推薦を受けている者 (4) 当財団の定める給付者の義務を果たすことができる者
給付内容	月額6万円以内
募集期間	2023年2～4月末頃予定



2023年度
ドクターによる
出前セミナー

セミナーテーマや申込資格、 申込方法については当財団ウェブサイトをご覧ください！

応援メッセージ

当財団は、多くの皆さまのご協力やご支援のおかげで、活動を続けることができています。毎年、さまざまな方からご寄附も頂戴しており、ご寄附をいただく度に、経済的な支援という意味だけではなく、そこに込められた想いを強く感じ、当財団の果たすべき役割を再確認します。今回、ご寄附者の皆さまより応援メッセージをいただきました！



神奈川県・60代女性

川野小児医学奨学財団の皆さま、いつもご苦労さまです。収まらないコロナ禍の中、医療従事者の方々には本当に頭が下がります。“命の大切さ”が特に叫ばれている昨今、そのような中での子どもたちの笑顔は、かけがえのない宝物です。その宝物が少しでも増えますよう、財団のご活躍を期待しています。



埼玉県・80代男性

当時、川野幸夫社長の長男「正登」くんは、小学2年生で、ウイルス性脳炎という病魔に襲われ急逝されました。私の長女も同い年だったのでよく覚えています。
川野社長は、このような不幸を減らすため『川野小児医学奨学財団』を設立し、小児医学・医療へのさらなる発展の取り組みを。私はただ傍観するのみ。そんな折、難民救済に命をかけた、あの中村哲医師の「行動で示せ」との言葉が、寄附への門を叩く道標に。



埼玉県・50代女性

昨年母が大動脈解離で倒れ、緊急の手術を受けました。先生方、看護師の皆さんをはじめとする、たくさんのスタッフに支えられて、母は癒やされ、健やかな日々を取り戻しつつあります。医療に従事されているすべての方々への感謝の気持ちを込めて寄附をいたしました。



愛媛県・食品メーカー

新型コロナウイルス感染症流行の中、献身的に小児医学・医療を支え、その発展に日々努力をされている皆さまに感謝と敬意を表します。体と心、地球の健康に対し「食」を通じて貢献していくことが私どもの社のCSVでございますが、弊社にもお子さまの病気治療や発達障害で悩んでいる社員が多数在籍しています。小児医療を、企業はもちろん社会全体で支えていく必要があると感じています。微力ではありますが、お役に立てれば幸いです。

ご寄附のお願い

「病に苦しむ子どもたちを少しでも減らしたい」

そんな想いにご賛同いただき、お力添えいただければ幸いです。ご寄附は、小児医学研究者への研究費支援や、小児医学を志す医学生への奨学金給付などに使用させていただきます。

ご寄附の方法

当財団ウェブサイトより寄附金申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、メール添付(PDF)・ご郵送・FAXのいずれかにて以下までお送りください。

- 1 メール添付(PDF)の場合：info@kawanozaidan.or.jp
郵送の場合：〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-10-1
公益財団法人川野小児医学奨学財団 事務局宛
FAXの場合：049-246-7006
- 2 銀行等よりご寄附をお振り込みください。
- 3 当財団にてご寄附のお振り込みを確認後、受領証明書・寄附控除のご案内をお送りいたします。

寄附金申込書

URL・QRコードより、
寄附金申込書をダウンロードいただけます。

<https://kawanozaidan.or.jp/donation/>



寄附金にかかる税制上の優遇措置

- 当財団にご寄附いただいた方は税金の控除等、優遇措置が受けられます。
- 個人の場合：ご寄附をされた翌年の確定申告時に当財団発行の受領証明書を添付し、所轄の税務署等にご申告ください。
- 法人の場合：ご寄附をされた当該事業年度の税務申告の際に損金算入手続きを行ってください。

おわりに

長引くコロナ禍や世界情勢の不安定化により、行先の不透明な状態が続いておりますが、
どのような厳しい状況においても、人々の命、そして健康を守ろうと
献身的に医学・医療に携わるすべての皆さまに、心からの感謝と敬意を表します。

さて、当財団は2016年度より事業報告書の発行をスタートし、
活動状況を毎年ご報告してまいりました。
この度、これまで以上に多くの皆さまに小児医学・医療、
さらに子どもに関する問題に関心をもっていただけることを願って、
大幅なりニューアルをいたしました。
これは、昨今の激変する世の中を目の当たりにし、
「この財団が、かけがえのない子どもたちのために、これからどう役に立っていけるのか」を
改めて考えた一つの結果です。
私は1982年の秋に、当時小学校2年生だった長男の「正登」を、
ウイルス性脳炎という病気で亡くしました。
それまでの私は仕事のことしか頭にありませんでしたから、
人の親として何もしてやれなかったことを、つくづく悔やみました。
そのような背景があり、子どもが健やかに成長できる社会作りのために、
小児医学・医療の発展を支援する財団を1989年に設立しました。
当時と比較すると、小児医学・医療は劇的に進歩し、
新生児死亡率は世界でも1、2を争うほど低い状況になりました。
一方で、医療的ケアを必要とする子どもや若年層の自殺者、
児童虐待の増加など、子どもを取り巻く問題は尽きません。
小児医学・医療が子どもの健康を守る上で非常に重要であることは確かであり、
これからもしっかりと支援を続けてまいります。子どもの問題を本気で解決するには、
社会全体が一緒になって取り組まなければならないと感じています。
一つの財団でできることは決して大きくありません。
ですが、この冊子を通じて、医師や研究者に加え、
子ども、家族、学校現場など多種多様な方々のお声が皆さまに届き、
子どもたちの未来のためにそれぞれができることを
考えるきっかけとなれば嬉しく思います。

理事長

川野幸夫



役員・選考委員一覧

[理事]

理事長
川野 幸夫
株式会社ヤオコー 代表取締役会長

川野 光世
株式会社川野商事 代表取締役

吉野 芳夫
伊藤忠商事株式会社 理事

新井 一
順天堂大学 学長

桃井 眞里子
自治医科大学 名誉教授・信州大学医学部 客員教授

上池 昌伸
株式会社ヤオコー 専務取締役

[監事]

杉田 圭三
株式会社 CWM 総合経営研究所 取締役会長

原 敏成
武州瓦斯株式会社 代表取締役社長

[評議員]

川野 清巳
株式会社ヤオコー 相談役

川野 澄人
株式会社ヤオコー 代表取締役社長

利根 忠博
株式会社埼玉りそな銀行 元会長・社長

村井 満
Jリーグ名誉会員 第5代チェアマン
株式会社 ONGAESHI Holdings 代表取締役 CEO

高篠 包
高篠・柿沼法律事務所 弁護士

豊田 友康
株式会社メディバルホールディングス 監査役

※敬称略・順不同

[選考委員]

雨宮 伸
埼玉県社会福祉事業団嵐山郷 参与

岡 明
埼玉県立小児医療センター 病院長

奥山 眞紀子
社会福祉法人子どもの虐待防止センター 理事

加藤 則子
十文字学園女子大学教育人文学部幼児教育学科 教授

● 梶島 香代
文京学院大学人間学部 学部長

河野 陽一
地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター 理事長

坂本 穆彦
大森赤十字病院 顧問

城 宏輔
医療法人すずき小児科 院長

林 泰秀
上武大学 副学長

桃井 眞里子
自治医科大学 名誉教授・信州大学医学部 客員教授

山縣 然太郎
山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座 教授

● 山崎 章子
埼玉県立浦和高等学校 養護教諭・埼玉県養護教諭会 顧問

山城 雄一郎
順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座 特任教授

※敬称略・五十音順 ※●はドクターによる出前セミナー事業の選考委員

2022年6月14日現在

発行日：2022年7月19日 発行人：川野絃子 アートディレクション：古谷萌 デザイン：五十嵐淳子 コピー：鳥巢智行（P2-3）
撮影：荒井隆之（P12）、山本あゆみ（P1-7 P14 P20-21） 取材・執筆協力：glassy&Co.・志村江（P5-6 P20-21）、横井かずえ（P14-15）



川野正登記念 公益財団法人

川野小児医学奨学財団

〒350-1124

埼玉県川越市新宿町 1-10-1

Tel: 049-247-1717

Fax: 049-246-7006

Mail: info@kawanozaidan.or.jp

Url: www.kawanozaidan.or.jp

FB: <https://fb.com/KawanoZaidan>

「Climb」というタイトルは、財団設立のきっかけとなった
正登(まさのり)さんの名前にちなんでつけられました。